

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

昨日（6日）、鹿児島県の協力を得て京都大学と鹿児島地方気象台が合同で実施した上空からの観測では、口永良部島新岳及び古岳の噴気活動と地熱地帯の状況等に特段の変化は認められませんでした。

口永良部島では、9月4日に日回数70回の火山性地震が発生しましたが、5日3回、6日3回と地震回数は減少しています。

口永良部島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続中です。

引き続き、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。火口から1km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○ 活動概況

・新岳及び古岳火口周辺の状況（図1、図2）

昨日（6日）、鹿児島県の協力を得て、京都大学と鹿児島地方気象台が合同で実施した上空からの観測では、口永良部島新岳及び古岳の噴気活動と地熱地帯の状況等に特段の変化は認められませんでした。

・地震、微動活動

火山性地震は、9月2日以降振幅のやや大きな地震が増加し、4日は70回発生しましたが、5日3回、6日3回と地震回数は減少しています。震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。

また、継続時間の短い火山性微動が、8月に4回、9月は4日までに2回（速報値）発生しましたが、5日以降は発生していません。

・地殻変動

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる大きな変化は観測されていません。

※ この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

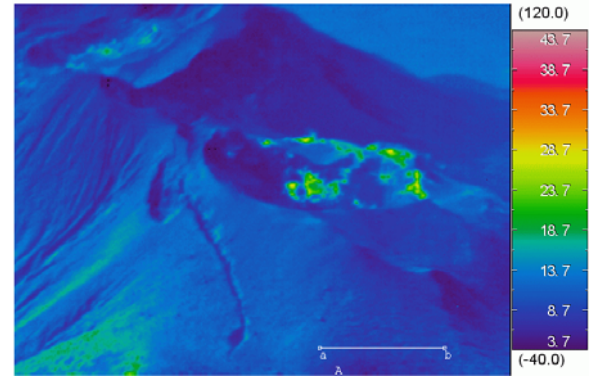
地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。



RG: 1 ̵: 1.00 SC: NORM

06/12/01
10:58:51

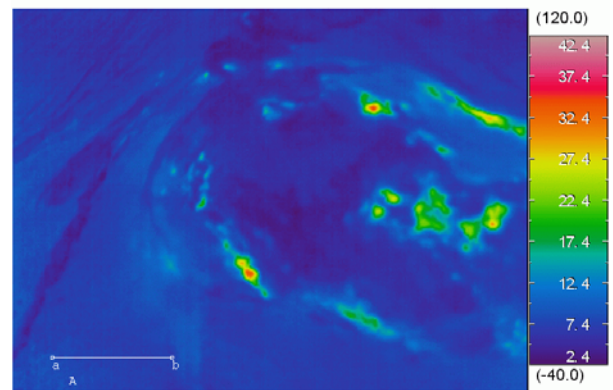


口永良部島新岳 (北北東側からの可視画像と熱画像) 2006年12月1日



RG: 1 ̵: 0.80 SC: NORM

07/12/06
11:21:08

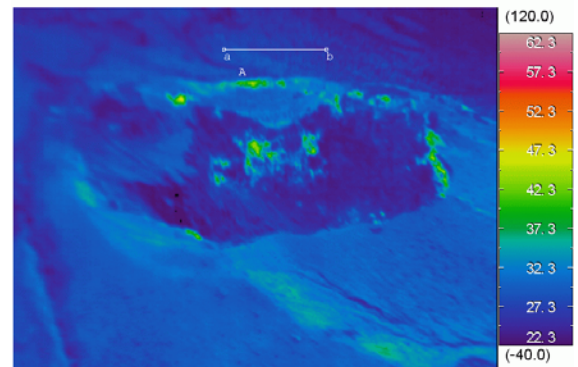


口永良部島新岳 (北北東側からの可視画像と熱画像) 2007年12月6日



RG: 1 ̵: 1.00 SC: NORM

08/09/06
15:09:55



口永良部島新岳 (北北東側からの可視画像と熱画像) 2008年9月6日

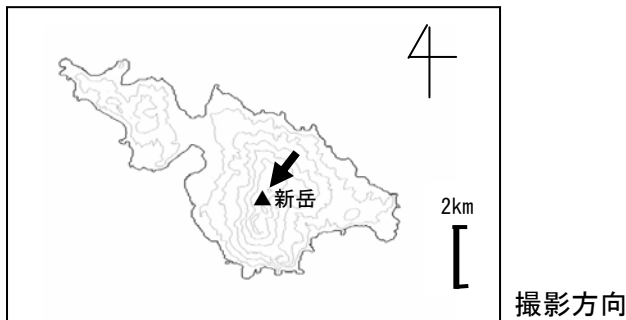
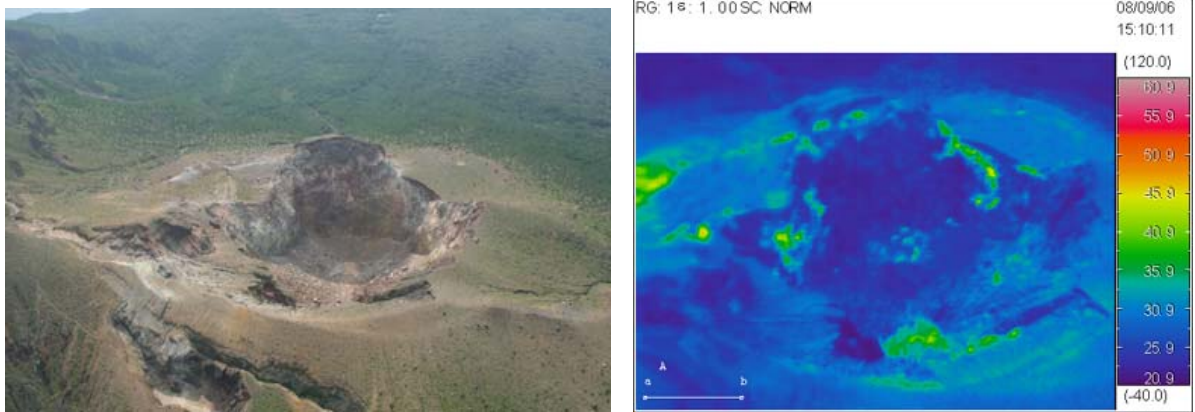


図1 口永良部島 上空から撮影した可視画像と熱映像の比較
(上から2006年12月1日、2007年12月6日、2008年9月6日)

※熱画像は図中のラインA上の平均温度から温度表示レンジを調整しています。



口永良部島新岳（東側からの可視画像と熱画像）2008年9月6日

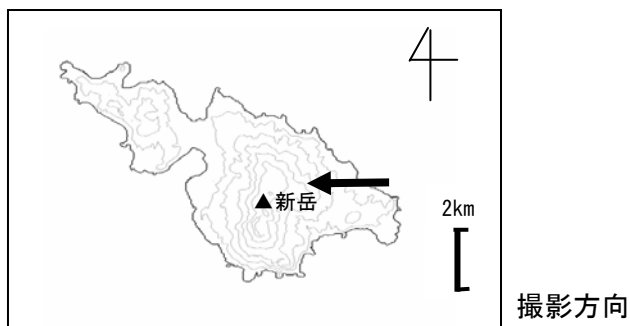


図2 口永良部島 上空から撮影した可視画像と熱映像
(2008年9月6日)

※熱画像は図中のラインA上の平均温度から温度表示レンジを調整しています。